

令和6年7月20日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

令和6年度 第7回

総合的直観力

先ほど神藤議長から、この会の基本的な趣旨についてお話しがありました。核心をついた良い話でした。有難うございました。

皆さんのお手元に7月1日発行の「知足」があります。表紙をご覧いただくと、「総合的直観力の人間学誌」と、実に欲張ったタイトルになっています。

「総合的直観力」とは、木内信胤先生の言葉を戴きました。神藤議長が「物事を総合的に判断する判断力が必要」と言われましたけれども、総合的に判断する力に直観力が加わって、「総合的直観力」という言葉に落ち着きます。総合力、判断の三原則に基づく判断力、プラス直観力です。

直観力とは、カン（第六感とかひらめき）です。言葉を変えれば「悟り」という言葉になります。お坊さんや宗教に関連の深い方は、「悟り」という言葉を聞くことがあると思います。

この「悟り」とノーベル賞は根本的なところで繋がっていると私は思っています。ノーベル賞を取るような学者の方々は、だいたい共通しています。お金儲けは非常に縁が遠い方々で、基礎的な学問を何年も何十年もコツコツとやり続けた結果、どこかではっと閃く。それがノーベル賞につながるような発見になる。これは、はっと閃いた学問的な悟りのようなものです。

それから、コツコツ腕を磨いて悟るという職人さんの世界もあります。猪瀬前理事長が「匠」という言い方をされました。猪瀬前理事長のもとで韓国から来たお弟子さんが宝石職人の修行をし、帰国した後、韓国で名人と言われるような賞を受賞されました。猪瀬前理事長が韓国へ講演に行った際、「〇〇名人の師匠」と紹介されたそうです。つまり、宝石職人の匠と評価をされたわけです。それは、猪瀬前理事長が愚直にコツコツと腕を磨いた結果、どこかではっと閃いた。閃いたものが、宝石の匠の基になっていったのだと思っています。ですから神藤議長が言われた総合力は、そういう名人に繋がるもの、ノーベル賞に繋がっていくものだと思います。

「人間学誌」という表現は、人間学を学びましょうということです。ですから、この会

の中で身につけて戴くものは、総合的直観力の人間学、それが身につくと良いですね。

ちなみに、総合的直観力が身についていれば、様々な物事が見えるようになってくるようです。キャリアアップ師の話は何度も申し上げています。中村天風先生は死の病にとりつかれて、北里柴三郎先生の治療を受けたけれども治らず、アメリカやヨーロッパを回って、治してくれる医者を探しましたが見つからなかった。日本で死のうと決めて帰る船の中で、キャリアアップ師に出会います。キャリアアップ師は天風先生の顔を見た瞬間、「こっちへ来い」と天風先生を呼びつけて、「お前は右の胸に大きな病をもっているな。このまま帰ると死ぬが、私はお前の病を治す方法を知っている。私に付いて来るかい」と言ったのです。

キャリアアップ師についてインドのヒマラヤが見える村に行った天風先生は、轟々と流れる瀑布の前にある岩の上で修行を続けます。ようやく天の声が聞こえるようになって、キャリアアップ師の下に行くと、キャリアアップ師は天風先生の顔を見るなり、「お前はもう悟ったな。天の声が聞こえたなら、体中からエネルギーが沸き上がって、病はもう治っているよ」と言われました。

天の声が聞こえる人間になると、どんな表情になるのでしょうか。おそらくとても良い表情になるのでしょうか。人間はその時々で良い表情になることはあっても、ずっと穏やかな雰囲気で行くことは難しい。私はまだそういう表情になっていません。お互い、顔を見た瞬間にこの人と付き合いたいな…と思うような表情になっていれば良いですね。

それともう一つ、表情の他に姿勢も大事です。この会場にも、椅子の背に寄りかからずにきちんと座骨が立っている、姿勢がピンとしている人が結構おられます。そうでない方は足を組んで、椅子に寄りかかって、首が曲がる。これはあまり嬉しくありません。普段パソコン仕事をしておられる方も、疲れたなと思ったら立ち上がるなり、座ったままでもよいから背筋を伸ばす。これをすると身体に大変よろしいのでお勧めします。

人さまと会った時、その表情を見て何となく近寄りたくなるような、オーラのようなものが漂ってくる人、姿勢がきちんとしている人、これは付き合いたいものです。

季刊誌「知足」の「総合的直観力の人間学誌」という言葉の中に、今申し上げたものが皆入っています。神藤議長の挨拶から、こういう話をしなさいと私の頭の中にパッと閃いたので申しあげました。

中村天風先生 — 略歴 —

では、レジュメに入ります。今日のテーマは「中村天風先生」の第1回目です。

天風先生の略歴は今まで何度もお話ししているので、簡単に申します。天風先生の小さい頃は、喧嘩っ早い子でした。子供同士で喧嘩をしたら、相手の指をボキンと折って喧嘩に勝つというのは当たり前でした。他にもこんなエピソードがあります。友達が投げた石ころが隊列を組んで歩いていた兵隊さんに当って、隊長が学校に怒鳴り込んできました。天風先生は自分だと名乗りをあげますが、友達をかばっていると分かってしまい、それなら悪い事をすればよいのだと確認をした瞬間に尋問していた将校めがけて硯を投げつけ、牢屋に入れられてしまいました。

中学の時には喧嘩で取っ組み合いをしているうちに、相手が出した短刀で、誤って相手の学生を刺して死なせてしまいました。この子はとても親が面倒を見られる子ではないと、両親は天風先生を玄洋社の頭山満に預けます。玄洋社は右翼の政治結社です。そこでも天風先生は気性の激しさから、「玄洋社の豹」と渾名されるほどでした。

その後、天風先生に軍事探偵にならないかという話があり、頭山先生から「何人殺しても構わない。思う存分暴れ回ってこい」と許可を得て、天風先生は喜んで中国へ行き、「人斬り天風」と呼ばれました。

29歳の時、日本に帰ってきましたが、業病に取り憑かれてしまいます。治りたいという一心で、日本のみならず世界を回ったけれども、病気を治せる医者は見つかりませんでした。日本で死のうと決め、マルセイユから日本に帰る船の中でキャリアップというインドのヨガの大聖人に会って、付いて行ったわけです。ヒマラヤの麓にある村で、ひたすら修行をした結果、天風先生は悟りを得て、病氣も克服し、日本に帰って来て、日本で初めてのヨガ直伝者となります。

日本に帰ってきた後は、皆さんご存じのように、地位も財産もなげうって講演活動をしてゆくわけです。講演会で天風先生は「私がこういう、人間として生きる素晴らしい尊い道を皆様にお話しできるのは、恩師の頭山満先生に私の基盤を作って戴いた。そしてキャリアップ先生から人さまを導く教えを戴いた。それによって皆様方にこの話ができる。有難いことなんです」と言っておられます。

中村天風先生 — 師 —

頭山満先生と天風先生の関係が伺える話をご紹介します。頭山満という人は、日本における民間の国家主義運動の草分け的存在であり、玄洋社という日本で初めて誕生した右翼団体を組織しました。頭山が「死んで来い」と言えば、すぐさま「はい」と動く部下が相当数いたといえますから、非常に人間的な魅力のある人だったようです。

天風先生が病で日本を出てから、カリアップ師のもとで悟りを得て病を克服し、日本に帰って来たのは8年目のことです。帰国して真っ先に、恩師の頭山先生のお宅に伺いました。朝早く内玄関から入って奥様に挨拶すると、奥様はとても驚いて、いつもであればすぐに中に通されるはずが、一寸待って下さいと言われます。30分待たされて、怒られるのを覚悟して中に入ると、頭山先生が紋付羽織袴で正座をして待っておられる。天風先生はわけが分からずにいると、奥様から「三郎さん（天風先生の名前）、何も言わず座布団にお座りなさい」と言われ、正面にある座布団に座りました。

頭山先生は天風先生の顔を見るなり、「キリストは行方知らずになって5年、素晴らしい人物になって戻ってきた。お釈迦様は6年、マホメットは7年行方知らずで、帰ってきた。あなたは8年行方知らずになって、実に尊い人物になって帰って来られた。よお、帰られた」と言われたそうです。この師匠にしてこの弟子あり、という素晴らしい子弟関係で繋がっていると感じます。

もう一つご紹介します。以前も申し上げた虎の話です。大正7年、イタリアからコーンという猛獣使いが東京の有楽座で猛獣ショーを開催するために来日しました。コーンは頭山満の噂を聞いて尋ねて来ました。面会した後、猛獣をご覧になりますかと言われ、出かけることになりました。同行者は天風先生と黒龍会会長の内田良平、頭山の甥でした。

コーンは頭山先生を見るなり、「あなたは猛獣の檻に入っても、猛獣は襲いかかりません」と言い、後ろにいた天風先生にも「この人も大丈夫だ」と言いました。負けず嫌いの内田良平が自分はどうかと聞くと、「あなたは駄目、すぐに食われてしまう」と言われてしまったそうです。

二重扉の檻の中に、まだ飼い慣らされていない虎の親子が唸っています。すると頭山先生が「天風、お前いっちょ入ってみるか」と言いました。天風先生が「はい」と言って虎の檻に入ると、虎が天風先生の傍に来てうずくまり、天風先生は虎の頭を撫でて出てきたという話があります。こんなことは、頭山先生と天風先生がお互いに絶大な信頼を持っているなければ出来ません。お互いの絆がいかに強かったかが分かります。

カリアップ師については、インドのバラモン教で最上位の位、ヨーガの哲学者ということですが、詳しいところはベールに包まれていました。常食はどうもろこしで、本当かどうか分かりませんが、106歳まで生きられたそうです。

一般論の健康ではありません。中村天風先生が健康というものをどのように捉えているかを申します。

1、食事

食事については、天風先生は果物が良いと言っておられます。実際に天風先生は果物だけを1ヶ月間食べ続けて、果物以外のものは食べなかったそうです。そうしたら、胸中が爽やかでとても良い気分でいられたという体験談を語っておられます。

また、魚が良いと言っておられます。それも赤身ではなく、白身が良いそうです。これも天風先生は実際に食べ続けています。赤身を1週間くらい食べ続けていたら、重くなって具合が悪くなってきたので、食べ続けるのはやめた方が良くということでした。

肉に関して申します。最近では、肉が良いという話をあちこちで聞きますね。私も肉は好きで、結構食べます。ただ天風先生が言われるには、「四足の獣で、殺す時に鳴き声を上げるものは食べてはいかん。鶏も二本足で同じようなものだから、おやめなさい。どうしても肉を食べたかったなら、割合で考えなさい。40～70代は、植物が7割・肉が3割にすれば良い。80歳を越したら、せいぜい1割ぐらいが限度だろう・・・」ということです。

もっとも天風先生は明治9年生まれですから、今ほど長生きの時代ではありません。だいいち、男性の平均寿命が50歳を超したのは戦後です。ですからその時代の話だと思っ
て戴ければよろしいでしょう。植物を多めに食べて、肉はできる限り控えた方がいいとお考え下さい。

ちなみに、天風先生はこんなことも言っておられます。肉が腐敗するのに三段階を経る
そうで、第一期は、硬い。第二期は、食べやすくなってくる。柔らかくて食べ頃になった
肉が腐敗の第三期で、これが腹の中に入ったらどうなるか分かるだろう・・・という話で
す。これも良いか悪いかはお医者さんに確認してみればよいでしょう。ですから今の時代
で言えば、肉はほどほど、歳をとったら限界が1割、というふうに捉えれば良かろうと思
います。

2、病

病について天風先生は、「病があるから人間は死なずにすんでいる。病は、お前に長生
きをさせようという天の恵みだ」と言っておられます。

人間は心の持ちようで変わるというのが天風先生の考え方です。前回、平安堂の御主人
の話をしました。喉の付け根に癌が出来て医者から引導を渡された御主人が、天風先生の
治療で10年間普通に生き延びているという話です。それから腸結核に罹った上総屋の17

歳の娘さんが、天風先生の言動で自分は腸結核ではないと信じた結果、治ってしまったという話も致しました。病は氣からと言いますが、病は心の持ちようで変わる。これが天風先生の病に対する考え方だと受け止めて戴くとよろしいでしょう。

GDPを考える

前回、GDPについて皆さんに宿題を出しました。お手もとの「知足」を見ていただくと、36 ページの木内孝顧問の文章の中で、GDPについてこうあります。

犯罪・事故・汚染・健康被害は国内総生産を押し上げ、子育て・家事労働・奉仕活動は計算外で無視されてます。

皆さんが毎日運動をして健康だと数値は上がりませんが、体調を壊して病院へ行けば国内総生産は上がり、迂闊な私たちを誤って喜ばせる報道が流れる。おかしいとおもいませんか。

これを踏まえて、GDPについて少しお考え下さいと言いました。ここからは井澤代表にバトンタッチします。

【井澤代表幹事】 6月の北関東フォーラムで深澤塾長からGDPについて勉強して下さいとテーマを戴きました。この場で発表して下さいの方がいらっしゃればお願いします。

【大木副代表】 発表するようなレベルではありませんが、少し調べてきました。GDPというのは、一定期間内に各国で生産された付加価値のことです。付加価値とはそもそも利益なのですが、その国でどれくらいの規模の経済活動が行われたかというものを示す数値です。付加価値とは、商品やサービスから原価や調達コストを差し引いたもの。要は、儲けの総額をGDPと言います。

参考までに例えを言いますと、農家が米を作って売る場合、燃料等色々な原価を差し引いて利益が100万円出たら、農家の利益が100万円のGDP。農家が卸売り業者に売って、卸業者が次に小売業者に売るわけですが、その原価を差し引いて残りが100万円だったら、卸業者も100万円のGDP。小売業者は消費者に売って、出た利益が100万。全部足すと、GDPは300万となります。

GDPは国内総生産ですから、日本の企業が海外での活動で生み出した利益は含まれていません。それを含むのは、GNP（国民総生産）になります。

参考までに、2024年のGDPの世界の順位は、一番がアメリカです。ドルベースでいくと、約27兆9600億ドル。2番目が中国で18兆、3番目がドイツで4兆7000億、4番目が日本で4兆2800億ドルです。日本は最近まで3番目でしたが、ドイツに抜かれています。同じように、5番はインド、6番はイギリス、7番はフランス、8番はイタリア、9番はブラジル、10番は韓国となっています。ただ中国の数字は、色々言われているように個人的には出鱈目の数字だと思っているので、実際にはどれくらい分かりません。以上です。

【井澤代表幹事】 よく調べて戴き有難うございます。私の方で少し付け足すと、実は付加価値に含まれないものということで、株価が値上がりしても付加価値は増えません。国民総生産（GDP）は上がらないということです。他に、中古品も付加価値としては計上されない。土地の売買も計上されないというのが、今回調べて分かりました。

木内顧問の文章にあるように、皆さんが毎日運動をして健康になった。非常に素晴らしいことをしているわけですが、その活動はGDPには全く入らない。逆に、運動をしないで不摂生をして病院にかかるとGDPは上がる。自分にとって良いことをすると、国民総生産は上がらない。病院で治療を受けると国民総生産が上がるということで、まことにおかしな計算式になっているわけです。

木内孝顧問は、「気づくか気づかぬかの勝負」というタイトルで、こういうことに我々は気づかなければならないと提言しているのです。今回、深澤塾長がGDPについて勉強してきなさいと言われたのは、塾長の話聞くだけではなくて、自分で考えたり調べたりして気付くということだと思います。以上です。

（塾長に戻る）

有難うございました。井澤さんが言われたとおりです。どうぞご自分でお考え下さい。考えるヒントをお渡しするというところでございます。

GDPを出したのは、お金が沢山あればある方がいいのか？ という素朴な疑問からです。最近のニュースで、イーロンマスクさんのお給料が株主総会で8兆円と承認されました。日本でそんな金額は株主総会を通らないと思いますが、世の中どうなっているのでしょうか。イーロンマスクさんクラスの人達は、普通の金額ではないお給料を既に取っているわけです。

なぜこの国はこうなのか、GDPは数字の面で役に立つと思っています。煎じ詰めていくと、金儲けに直結しているわけです。数字の面をずっと追いかけていくと、お金儲けというのはどこら辺が限度なのでしょう？ 中庸（ほどほど）はどこら辺か？ 収まりどころが良いの

はどこら辺なのか？・・・というのを考えるヒントにして戴きたいと思って、GDPを出しました。

ちなみに、日本は瞬間的ですが、アメリカを抜いてGDPで世界1位になったことがありました。そこからアメリカが凄まじい日本叩きに入って、すぐに1位を取り返しました。日本はずっと長く2番でいましたが、3番になり、今は4番になり、どんどん落ちていくでしょう。どこが悪いのか？単純明快に言えば、政治家がアホだからです。そういう政治家を生み出している国民もアホだから、ということに落ち着くと思います。

恒例の質問

恒例の質問をさせて戴きます。今年も半年以上経ちました。

○良い日が続いていると思う方

○嘘は比較的つかなかったし、嘘は比較的つかれていない方

ただ、国と国との間では嘘をつくのが当たり前になっています。色々な情報があふれています。もしかするとこれは嘘かもしれない、と思いながら報道を聞いた方が良いでしょう。特に国と国との話になるものは危ないと思って下さい。

○今年をよく有難うと言っているし、有難うとも言われている方

○身体の手入れをよくやっている方

○我ながら、自分磨きをよくやっていると思う方

身体の手入れはだいたい肉体ですが、自分磨きは脳の方を磨いている方が多いようです。自分のために自分磨きをやると、あまり先に進みません。世のため・人のために自分磨きをしていると思うと、ちょっと進みます。

○昨晚眠る時、「明日は良い日だったな」、或いは年末を想像して「今年はいいい年だったな」と、先々のことを過去形で思って寝た方

数名手が挙がりました。結構でございます。

令和6年を考える

お時間が少なくなりましたから、テーマを一気に申しませう。

健康

コロナの感染者数が増加しています。今は第11波だそうですが、政府のコロナに対する対応の仕方が手のひらを返しています。コロナで亡くなった方の扱いなどは正反対です。コロナ陽性の方が亡くなった場合、コロナ死としてカウントするように今はなっていますが、コロナが始まった頃は正反対でした。

氣をつけていないと、政府の考え方や施策は時々正反対になることがあります。先ほどお話しした総合的な判断力、「判断の三原則」（本質・歴史・大局）で見えていく必要があります。

本質は、コロナに対して政府がどういう態度をとっているか、なぜそういう態度をとるのか。なぜ？ を考えるのが本質を見極めることです。

歴史的に見るとは、感染症に対して政府はどういうことをしてきたか、50年、出来れば100年ぐらいまで遡って歴史を調べる。自分で調べれば、政府の感染症に対する対応の仕方がコロコロ変わっていることが分かります。

大局は、それぞれの国がコロナに対してどういう対応をしたか、何故そういう対応をしたかを見ればよい。分からなければ、お金がどこからどこへ動いたか、どこの国がどれだけ儲かっているのか、どういう団体や企業が利益を上げたのか、利益がどこからどこに流れたのかを見る。これが大局的に見る時の一つの材料になります。

ということで、判断の三原則を身につけていると、自分自身のことでも判断できるし、家庭のことでも判断できます。会社でも国家でも同じ、これは変わりません。私が話すものについても、判断の三原則やご自分の判断基準で、是々非々を見ながらお聞きになると良いと存じます。

縦の学び・横の学び

縦の学びは、自分自身の背骨を作る学問です。横の知識は、色々なことを沢山仕入れておくと、パッと閃くものにも繋がります。横の知識をずっと広げても、縦の学問をずっと深めても、どちらもそれがかなり溜まると、はっと閃く。閃くと悟りに直結をします。

嘘があふれている世の中

そういう世の中になったのだと思って、自分がおやつと感じたものは全て一度、本当かな？ 何故かな？ と思って考える習慣をつけて戴きたいと存じます。

我が信条

信条とは、自分の信念だと思って戴ければよろしいでしょう。信念を後押しするものが信条だとお考え下さい。

冒頭の挨拶で神藤議長が「自分の立ち位置を考える。足が地についているかどうか考えましょう」と言われました。神藤議長はご自身が今、そういうふうにしておられるとの事でしたから、大変良い話をして戴いたと思います。そう思っているということが、自分の「我が

信条」に直結しています。

最後に付け加えて申します。この会は論語を学ぶ会です。論語をテキストとして学んでいますが、両フォーラムとも論語を読み終わったので、論語から少し横の学びの部分を広げています。

ちなみに東京フォーラムでは、論語の中で良いと思うものがあつたら、「これはどういう意味か、自分なりにこう思うけれど、どうだろうか」と代表幹事に伝える。それを次回、私が説明するという流れになっています。

何度も申し上げていますが、私が論語の中で良いなと思っているのは、「利に放りて行えば、怨多し」です。目の前の利益につられてパッと手を出すと、あとでとんでもないしっぺ返しがある。儲け話というのは大概、後ろに何かあるのです。目先の欲につられて手を出さない。儲け話が舞い込んできたら、直ぐに飛びつかない。その、「ちょっと待てよ」を、論語の中で教えています。

お時間になりました。本日の講話はこれで終了に致します。